【プレカンファレンスワークショップ 1】
第 4 回医療系 IR 友の会ミーティング～
実践共有のさらなる発展のために

Fourth meeting of the association for institutional research in medical education ~For the development of good-practice sharing

日　時：8 月 4 日（木）17:00-18:30

会　場：A 会場（群馬大学　昭和キャンパス　医学科　基礎講義棟「基礎中講堂」）

【司会　Moderator】

恒川　幸司（岐阜大学医学部医学科　医学教育 IR 室）　Koji Tsunekawa（Gifu University）

【ファシリテーター　Facilitators】

中村　真理子（東京慈恵会医科大学　教育センター）　Mariko Nakamura（The Jikei University School of Medicine）

岡田　聡志（千葉大学　国際未来教育基幹）　Satoshi Okada（Chiba University）

淺田　義和（自治医科大学　医学教育センター）　Yoshikazu Asada（Jichi Medical University）

菰田　孝行（東京医科大学　教育 IR センター）　Takayuki Komoda（Tokyo Medical University）

柿崎　真沙子（名古屋市立大学大学院医学研究科　医療人育成学分野）　Masako Kakizaki（Nagoya City University）

佐藤　麻紀（愛知医科大学　医学部 IR 室）　Maki Sato（Aichi Medical University）

椎橋　実智男（埼玉医科大学　IR センター）　Michio Shiibashi（Saitama Medical University）

【概要】

2000 年代における機関別の認証評価に引き続き、医療系における分野別評価が 2010 年代から始まった事を受けて、日本の医療系学部、特に医学部では、学部独自の IR 組織が立ち上がるようになった。このような経緯から我々は、2018 年より医学教育における Institutional Research（IR）に関するプレコングレスワークショップを、また 2019 年からは当該ワークショップを「医療系 IR 友の会ミーティング」と称して、各大学の IR 担当者らが医療系の分野別 IR に関する課題を議論してきた。しかしながら、これまでのワークショップは課題が多岐にわたるために総花的で、各議題に関する実践的な取り組みや、IR データを用いたアウトカムに関する発表を共有する機会は少なかった。　そこで、2022 年 1 月 23 日に、「第 1 回医療系 IR 友の会実践会」と題し、卒後データに関する課題と優れた取り組みの発表、そして有益な討議をおこなった。また、2022 年 3 月 23 日には「第 2 回医療系 IR 友の会実践会」が行われ、各大学の取り組みや課題について発表があり、積極的な討論が行われた。それらを踏まえて、本ワークショップでは、この実践会の取り組みを充実させるために、実践会の参加者の皆様のニードを拾い上げ、そして各大学における Good-practice を共有していただくきっかけを得たいと考えている。その中で、この先の実践会の具体的な提案があれば、大いに歓迎する。

＊本ワークショップ実施に向けて、参加者には事前アンケートを行います。

＊ IR 部門に所属されていなくても、IR に関心のある方の参加を歓迎いたします。

キーワード：Institutional Research、医療系 IR 友の会、IR 実践

【プレカンファレンスワークショップ 2】
リモートで臨床シミレーションを開催する：
何を、そして、どのように？
Workshop on handling remote clinical simulations: how and what

日　時：8 月 4 日（木）17:00-18:30
会　場：B 会場（群馬大学　昭和キャンパス　医学科　基礎講義棟「基礎大講堂」）

【座長・司会　Chair・Moderator】

山畑　佳篤（京都府立医科大学）　Yoshihiro Yamahata（Kyoto Prefectural University of Medicine）

【ファシリテーター　Facilitators】

山畑　佳篤（京都府立医科大学）　Yoshihiro Yamahata（Kyoto Prefectural University of Medicine）
斎藤　裕之（山口大学）　Hiroyuki Saito（Yamaguchi University）
望月　礼子（鹿児島大学）　Reiko Mochizuki（Kagoshima University）

【概要】

2000 年代以降、日本ではシミュレーションによる臨床技能の教育が広まり、大きく発展してきました。しかし新型コロナウイルス感染症蔓延により、一時的に開催がストップされる事態になりました。
本セッションの企画者は、遠隔操作可能な模擬患者モニターと、ビデオ会議システムを用いて、遠隔地から指導者が臨床シミュレーションを運営できるような工夫をし、学会発表等も行ってきました。本セッションではその方法を共有するとともに、より効果的なシミュレーション運営の方法について、参加型でワークショップを行います。

【プレカンファレンスワークショップ 3】
多様性の時代に対応できる医療者育成：模擬患者参加型医療面接教育に患者の個別性をどう盛り込むか

Fostering medical professionals during the diversity era: How to incorporate patient individuality into medical education with SP

日　時：8 月 4 日（木）17:00-18:30
会　場：C 会場（群馬大学　昭和キャンパス　医学科　基礎医学実習棟「基礎大学院講堂」）

【司会　Moderators】

阿部　恵子（金城学院大学看護学部、一般社団法人 JASP）　Keiko Abe（Kinjo Gakuin University, JASP）
後藤　道子（一般社団法人 JASP、三重大学大学院医学系研究科家庭医療学）　Michiko Goto（JASP, Mie University）

【演者　Speaker】

阿部　恵子（金城学院大学看護学部、一般社団法人 JASP）　Keiko Abe（Kinjo Gakuin University, JASP）

【ファシリテーター　Facilitators】

阿部　恵子（金城学院大学看護学部、一般社団法人 JASP）　Keiko Abe（Kinjo Gakuin University, JASP）
後藤　道子（一般社団法人 JASP、三重大学大学院医学系研究科家庭医療学）　Michiko Goto（JASP, Mie University）
早川　佳穂（一般社団法人 JASP、岐阜大学医学教育開発研究センター）　Kaho Hayakawa（JASP, Gifu University）
吉田　登志子（一般社団法人 JASP）　Toshiko Yoshida（JASP）
井上　千鹿子（一般社団法人 JASP、日本医科大学医学教育センター（非常勤講師））　Chikako Inoue（JASP, Nippon Medical School）

【概要】

近年、超高齢社会となり医療の現場は病院、診療所から在宅へと多様化し、人々の抱える疾病や生活者との関係性構築が複雑化している。診療場面では、生物学的モデルでは対応できなくなり、Engel G.(1977) の提唱した生物心理社会的モデルをもとにした個々人の価値観、倫理観、死生観など、その人がその人らしく cure と care を受けながらよりよく生きる（well-being）ための情報収集と医療介入が求められている。このような医療社会状況を背景に、2000 年頃より、医学教育において模擬患者参加型の医療面接教育が導入され、患者の不安や社会的状況、解釈モデルを重要視した学習法略が主軸となり、一定の教育効果をあげてきた。一方で、シナリオの画一化、演技の標準化などから、模擬患者のはたす役作りは限定されたものとなっている。多様化の時代に対応できる医療者を育成するために、来たる AI 搭載による医療ロボットが見落とすような個別性を持った模擬患者をどう養成するのかを、模擬患者を含めて模擬患者養成に関わる人々とワークショップを通じて考えていきたい。ワークショップでは、はじめに、「SP 養成における個別性に関する情報共有」のグループディスカッション 1（20 分）を行なった後、「患者の多様性、個別性とは」に関するミニレクチャーを行い、次に、既存のシナリオを元に「AI がカバーできない個別性を模擬患者シナリオに盛り込む作業と演技練習」のグループワークを行う（30 分）。最後に、グループ毎に医療面接の実演を行い、フィードバックをする（30 分）。本ワークショップを通じて、画一的になりがちな模擬患者参加型教育に生活者としての患者の個別性を盛り込むための視点を共有することができる。

Gorge Engel.The Need for a New Medical Model: A Challenge for Biomedicine, Science, New Series, 1977: 196 (4286):129-136.

キーワード：医療面接、模擬患者、多様性

【プレカンファレンスワークショップ 4】
レゴシリアスプレイの手法を医学教育に活用した、手も頭も動かす省察
Using Lego Serious Play for creative reflection in medical education

日　時：8 月 4 日（木）17:00-18:30

会　場：D 会場（群馬大学　昭和キャンパス　医学科　基礎医学実習棟「大学院実習室」）

【司会・ファシリテーター　Moderator・Facilitator】

田中　淳一（東北大学　大学院医学系研究科　医学教育推進センター）　Juniichi Tanaka（Tohoku University）

【概要】

医療の質の向上のために「省察」は、生涯にわたって . 自律的に学び続ける上で、非常に重要です。省察とは、自己や自身の行動を振り返ることで、自分自身で俯瞰的な理解を深め、視野を広げるメタ認知的プロセスであり、将来の行動をよりよいものになります。省察を行う際には、行動や考えを明確にする必要があり、特に他者を交えて行う場合に、考えを相手に伝える必要が出てきます。通常は言語化して、他者との対話を通して、振り返っていきます。医学教育の分野では、省察の代表的な手法としてポートフォリオが挙げられますが、筆記を主体とするもので、言語化できないようなイメージがあった場合、学習者・指導者ともに十分心情に関する記載・討議を行う上で限界があると考えています。

そこで、今回、考えをより可視化できるレゴシリアスプレイという技法を用いて、非言語的手法も活用した省察を体験いただこうかと思います。この手法は、手と頭が連携を取りながら、新しい知識を構築、再構築していくというコンストラクショニズムという理論に基づき、参加者がレゴブロックを使って作品を作り、作品とその比喩的な内容の説明と参加者同士の対話から、コミュニケーションや自らの意思の確認や決定を促進させる。この手法では感情や心の声、それより深い普段は意識しないような記憶や直感を、作品で表現でき、気づきを得る点が強調され、ブロックの組み合わせで自身の考えを表現することで、自らも他者からも視点の幅が広がり、より省察が深められます。

今回は、自らの教育経験について、レゴブロックを用いて、視覚化し、他者との意見交換を踏まえて、俯瞰的に振り返っていただきたいと考えています。テーマを教育実践の振り返りで考えているため、教育実践を行っている方に参加いただければと思いますが、教育に熱意があれば、職種を問わず、語っていただける場になるものと考えています。

キーワード：レゴシリアスプレイ、省察

【プレカンファレンスワークショップ 5】
臨床研修および臨床実習の評価：EPOC2 と CC-EPOC、LMS との連動ー現状と目指すもの

Evaluation of clinical training and clinical clerkship: linkage between EPOC2, CC-EPOC, and LMS - current status and goals

日　時：8 月 4 日（木）17:00-18:30

会　場：E 会場（群馬大学　昭和キャンパス「刀城会館」）

【座長　Chair】

守屋　利佳（北里大学医学部　医学教育研究部門）　Rika Moriya（Kitasato University）

【司会・ファシリテーター　Moderators・Facilitators】

守屋　利佳（北里大学）　Rika Moriya（Kitasato University）

藤崎　和彦（岐阜大学）　Kazuhiko Fujisaki（Gifu University）

伊藤　彰一（千葉大学）　Shoichi Ito（Chiba University）

椎橋　実智男（埼玉医科大学）　Michio Shiibashi（Saitama Medical University）

高村　昭輝（富山大学）　Akiteru Takamura（University of Toyama）

【演者　Speaker】

高橋　誠（北海道大学）　Makoto Takahashi（Hokkaido University）

【概要】

医学教育専門家認定更新用講習会日本医学教育学会の認定する医学教育専門家は医療者教育における国際的な動向、国内的な動向を絶えず、踏まえ、日本の医学教育を牽引していく必要がある。本認定更新用講習会は医学教育専門家取得者ならびに取得を考慮する医療関係者に対して医療者教育の重要なトピックスを提供し、それらを基に発展的に学ぶ機会を提供することを目的としている。卒前から卒後を通して、必要な医学教育に関わる内容を update するために今回も講習会を企画している。今回は「臨床研修および臨床実習の評価：EPOC2 と CC-EPOC の連動、現状と目指すもの」と題して開催する。臨床研修病院では EPOC2、卒前臨床実習では CC-EPOC の運用開始にあたり、1）これらを教員が効果的に使用していくためにはどのようにすべきなのか？ 2）既存の LMS や評価との連携は可能なのか、3）何よりも学生や研修医のための評価ツール、ポートフォリオとして利用可能なのか、4）そのほかの現在の問題点なども含め、今後の改善策も踏まえて学習し、セッションの目標としては「参加した教員・指導者が現場での実用的な運用できるようになる」こと考えている。講習会の学習方略としては講義、SGD を中心にアクティブラーニングの要素を加味して実施する予定である。＊「認定医学教育専門家」認定更新用講習会です。40 名～ 60 名程度を想定しています。対象：「認定医学教育専門家」を優先としますが、余裕があればそれ以外の参加者も参加可能です。

キーワード：専門家更新用講習会、臨床実習・臨床研修評価、CC-EPOC/EPOC2